

## 防衛大学校本科第48期、理工学研究科前期課程第41期、同後期課程第1期及び総合安全保障研究科第6期学生卒業式防衛大学校長式辞（平成16年3月21日）

防衛大学校本科第48期、理工学研究科前期課程第41期、同後期課程第1期及び総合安全保障研究科第6期の学生諸君は、本日をもって所定の全課程を修了し、小原台生活に別れを告げることになりました。ここに卒業式典を挙げるに当たり、卒業生諸君に対し、私は本校の教職員一同と共に、心から祝意を表したいと思っております。



第7代学長 西原 正

本日のこの栄えある式典に、国務ご多忙の折り、ご臨席賜りました小泉内閣総理大臣<sup>注(1)</sup>をはじめ、内外多数の来賓各位のご参列に対しまして、厚くお礼を申し上げます。また遠路はるばるご参列を賜りましたご父兄の皆様方に対しまして、ご子女のご卒業を心からお祝い申し上げます。更にはこの式典には、43年先輩の防大5期生の方々をホームカミングデーとしてお招きしており、これらの大先輩も、若い後輩諸君の門出を祝福して下さっています。

さて本科卒業の439名の諸君、諸君は4年前に一抹の不安と戸惑いを抱いて小原台の桜の並木を初めてくぐって以来、規律と礼節を重んじる集団生活をしながら、限られた時間をやりくりして勉学に励み、校友会活動などによって強靱な体力と精神力を身につけて今日に至りました。このことに自信と誇りをもって、幹部候補生学校に進んで下さい。現在の自衛隊のイラクにおける活躍にも見られますように、諸君のこれからの任務は、予期せぬ時に予期せぬところで求められることになるでしょう。それらの未知の任務を首尾よく遂行することが出来るよう、柔軟な思考力と鋭い洞察力が要求されるでしょう。

そのためにも、諸君が今後とも歴史書、古典文学などに親しみ、多くの分野の人々と交流し、また海外の異文化に接するなどして人間への理解を深め、指揮官としての資質をしっかりと磨いて欲しいと思っております。

また、国防の任務には、武器の使用を伴うことが想定されます。指揮官としての幹部自衛官は、沈着さと自制心とともに、高い道義観をもつ

---

注(1) 小泉純一郎

た指導力をもつことも求められます。

理工学研究科前期課程を卒業する61名の諸君及び総合安全保障研究科課程を卒業する15名の諸君は、本来の自衛隊の業務をしばし離れて、2年間の課程を見事に修めました。高度化する防衛装備・技術に対応する理工学分野での実験や分析を通しての研究、また国際安全保障、戦略科学分野における研究をもとに、今後の自衛隊に専門的な分野で大きな貢献をしてくれることを期待します。

また理工学研究科後期課程を卒業する5名の諸君は、平成13年度に開設された同課程の第1期生であります。近い将来、諸君の卒業論文が博士論文として認定されることを心待ちにしております。

最後になりましたが、本科及び研究科で学んだ7ヵ国から来た21名の留学生諸君、諸君は祖国を離れて本校に派遣され、短期間に日本語を習得し、また慣れない日本の文化習慣を受け入れながら、見事に所定の課程を修了しました。この努力に対して深い敬意を表します。この間、日本人学生と文字通り寝食をともにして培った絆が、将来の国際平和協力活動などで活かされることを願ってやみません。

卒業生諸君、いよいよ小原台を後に羽ばたく時が来ました。学生歌にあるように、「朝に忠誠を誓い、夕に祖国を思って」邁進して下さい。我々教職員一同は、諸君の健闘を祈っています。

諸君、卒業おめでとう。